

# 総文 ニュース

加古川総合文化センター情報誌



【編集・発行】加古川総合文化センター指定管理者 株式会社ケイミックスパブリックビジネス  
 【施設情報】住 所：兵庫県加古川市平岡町新在家 1224-7  
 休 館 日：第2・4月曜日(祝日の場合はその翌日)/年末年始(12月29日～1月3日)  
 開館時間：博物館・宇宙科学館・プラネタリウム館 ……10時～17時  
 美術ギャラリー・コミュニティ施設 他 …… 9時～21時

TEL：079-425-5300 (9時～21時)  
 HP：kakogawa-soubun.jp

kakogawa-soubun.jp




## プラネタリウム

時間	11:00	13:20	14:40	16:00
平日	—	—	一般プログラム	—
土日祝 春休み	キッズ プログラム	キッズ プログラム	一般プログラム	一般プログラム

春休みは 3/25～4/6

料 金 高校生以上：400円 / 4歳～中学生：100円  
 ※無料及び半額の対象者については HP を確認ください

月	一般プログラム	キッズプログラム
4月	彗星	おおぐま座 ～クマにされた美しい妖精のおはなし～ 
5月	冥王星	イラスト / 尾崎潤

## ロビーコンサート

気軽に音楽を楽しんで頂ける無料コンサート

[vol.1] 4月24日(土) 12:00～13:00… リトル by リトル

[vol.2] 5月2日(日) 12:00～13:00… 竹田 充子ソロ演奏

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、場所は大会議室となります。

ご入場には、検温、手指消毒、マスク着用、連絡先の記載が必要です。なお、コンサートの模様は、後日当館 HP にも掲載致します。



## サンデー・こどもチャレンジ!

毎月テーマを変えて、科学や宇宙、工作などにチャレンジするワークショップ

12:00～12:30 (受付は当日 11:45～先着 10名) ※未就学児は要保護者同伴

[4月25日]

紙皿 UFO フリスビー大会  
～遠くまで飛ばしてみよう!～

[参加費] 無料

[対 象] ハサミが使えるお子様



[5月23日]

日時計をつくろう

[参加費] 100円

[対 象] ハサミが使えるお子様



5/26  
(水)

## 総文カルチャー「総文 de 天体観望会」

プラネタリウムで「今日の星空」を観覧後、屋外へ出て皆既月食を見よう!  
 ※天候不良の際は、屋内で雨天用プログラムを実施します。

[講師] 加古川宇宙科学同好会

[対象] 中学生以下は要保護者同伴 [定員] 35名(先着) [持物] 筆記用具

[料金] 無料 ※要事前申込 [受付] 5月5日(水・祝) 9:00から



18:00～20:30

## 4月開講 総文カルチャー教室

やさしい陶芸	山本 諭 (陶芸家)	毎月第2・4土曜日 / 14:00～17:00
はじめての金継	江藤 雄造 (「江藤漆美術工芸」代表)	毎月第4金曜日 / 10:00～12:00
ぶらり加古川スケッチ	野中 美行 (日洋会委員)	毎月第2・4金曜日 / 10:00～12:00
洋画	田中 亮平 (洋画家)	毎月第1・3水曜日 / 13:00～15:00
キャラクター・イラスト～初級・中級～	桑田 瑠香 (イラストレーター)	毎月第2・4土曜日 / 13:00～14:00
キャラクター・イラスト～上級～	桑田 瑠香 (イラストレーター)	毎月第2・4土曜日 / 14:30～16:00
ケーキ屋さんのお菓子講座	山本 智恵 (「お菓子の家シェシエ」オーナーパティシエ)	毎月第3木曜日 / 13:00～15:00
薬膳に学ぶ健康家庭料理	華尾 有紀 (国際薬膳調理師)	毎月第3水曜日 / 11:30～13:30
こぎん刺し	handcraft こゆき (こぎん刺し作家)	毎月第2日曜日 / 10:00～13:00
加古川の歴史を語る	山本 祐作 (東播磨地域史懇話会)	毎月第3火曜日 / 14:00～15:30
みんなで歌う! ゴスペル風合唱	藤村 富紀子 (ゴスペル風合唱団インチョーム)	毎月第1・3金曜日 / 19:00～20:30
ギターをはじめよう ～初級・中級～	大西 世悟 (ギター講師)	毎月第1・3火曜日 / 初級 10:30～12:00 / 中級 13:00～14:30
こども将棋教室	内藤 秀彰 (加古川市将棋協会会長)	毎月第1・3土曜日 / 10:00～11:30
こどもデザイン教室	西嶋 輝 (会いに行きたいデザイナー)	毎月第3土曜日 / 10:30～12:00

※途中入会可の場合は、残りの回数分を前納頂きます



第3回

ひぐち びざん

## 樋口 尾山

- 1895年 加古川市尾上町に生まれる。本名俊次。  
 1917年 御影師範卒  
 その後、加古川市内小学校、高砂市内小学校、県立第二神戸高女で教鞭を執る。  
 武庫川女子大学で書道を教える。  
 黎明書道会会長、加古川市美術協会顧問、日本書芸院顧問等を歴任。  
 個展多数
- 1951年 兵庫県教育功労者  
 1966年 尾上神社に筆塚を建立  
 1967年 兵庫県文化賞  
 1970年 加古川市功労者表彰章  
 1984年 第一回加古川文化賞  
 1987年 没  
 1995年 加古川総合文化センター  
 生誕百年記念「樋口尾山展」郷土加古川に生きた天才書家

所蔵庫の収蔵点数の多い順に作家をご紹介させていただいております「扉」、3回目に扉を開けてご紹介いたしますのは、樋口尾山氏です。

尾山氏は1895年に加古川市尾上町に生まれました。少年時代には軍人になって偉い人になりたいという憧れと夢を持っていらしたそうですが、育英の道を選ばれて、生来の趣味でもあった書道に身を託されました。そして、日下部鳴鶴氏の系譜に連なる書道家として兵庫県下書道会のリーダー的存在となり、組織の確立と後進の指導に大きな足跡を残されました。加古川総合文化センターでは1995年に生誕100年を記念して「樋口尾山展—郷土加古川に生きた天才書家—」を開催しています。展覧会の図録に、「昨今は、とかく習字や書道についての本道が軽視され、単なる手先の技術として見切られている。然し、書道は単なる手先の技術の集積ではない。普く文字・語句・文章には独自の意義を持ち、夫々の魂を宿している。その心や魂をまとめて、筆や墨によって紙面に創出し具現することが書道の神髄に外ならない。」と、書道に対する思いを話されたことが寄稿されています。また、尾山氏の自叙伝に「何れの道でも一流になるには並大抵のことではない。生まれついた素質と研鑽努力と信念が必要である。今日過去を回顧して万感胸に迫るものがある。」と語られています。



## 宙おばさんの星めぐり

### 第7回「月」



月は地球に最も近い天体、地球の衛星です。直径は3,474kmで地球のおよそ1/4。地球と同じように、主に金属と岩石でできています。1969年7月、アポロ11号が月面着陸に成功。人類が到達した唯一の天体でもあります。

月面には様々な模様が見られます。白く見える部分は、ごつごつとした山岳地帯で、隕石の衝突によってできた大小無数のクレーターがあります。一方、暗く見える部分は、「海」と呼ばれる比較的なめらかな平地です。地球のように水があるわけではありません。

約1ヵ月で地球の周りを1周する間に、自分自身もゆっくり1回自転するため、地球にたえず同じ面を向けています。このため、地球からながめる限り、月の裏側は見る事ができないのです。また、地球を回るうちに、太陽に照らされ輝く部分が変わっていくため、満ち欠けを繰り返しています。

月の満ち欠けの周期は29.5日で、明治時代の初めまでは、この周期をもとにした暦（太陰暦）が使われていました。現在は地球が太陽の周りを回る周期をもとにした太陽暦が使われています。

博物館コラム

アナタ

## また博物館に恋してる

しちりん

### 第7回「七輪」



七輪は、炭を使って食材を煮炊きするときに使われる小型のかまどです。今でいうなら、携帯用のコンロといったところでしょうか。

七輪は、江戸時代につくられたのが最初といわれています。明治時代になり、囲炉裏のない家が町中に増えるようになると、手軽に持ち運びできる便利さが好まれ、よりいっそう広く使われるようになりました。七輪の下部には空気穴がついており、これを開閉することによって火加減を調整します。火が強いときは空気穴を閉めて空気を少なくし、弱いときは逆に空気穴を開け、風を送りました。

煙が多く出るため、家の中ではなく、主に庭先などの家の外で使われることが多かったようです。かつては、もくもくと煙をあげながら七輪で魚を焼く姿がよく見られたといえます。特に、七輪で秋刀魚を焼く光景はまさしく秋の風物詩でした。

とはいえ、七輪は、今でもアウトドア用品コーナーなどで気軽に購入することができます。野外での調理で好んで使う人もまだまだ多く、今も現役で活躍している道具の一つといえるでしょう。